



女性における血漿デヒドロエピアンドロステロンと心筋梗塞のリスク

KEYWORDS// DHEA, DHEA-S, 心筋梗塞

著者らは女性におけるデヒドロエピアンドロステロン(dehydroepiandrosterone; DHEA)およびデヒドロエピアンドロステロン硫酸塩(DHEA-S)の血漿濃度と心筋梗塞との関係について検討した。血液試料は女性 32,826 人が 43~69 歳の時(1989~1990 年)に採取されたものを用いた。1998 年までの追跡期間に 239 人が心筋梗塞と診断された。解析は年齢、喫煙状況、空腹状態、採血日を一致させた症例対照を選択し、人体測定学的因子や食事を含む交絡因子を調整したロジスティック回帰分析を用いて行った。DHEA の基準メディアン濃度(10, 90 パーセンタイル値)は心筋梗塞を発症した女性では 17.1(4.3, 46.7)nmol/l, 対照で

は 16.6(6.1, 37.9)nmol/l であった。心筋梗塞の危険率は DHEA および DHEA-S の血漿濃度の増加とともに高まった。DHEA の高四分位の女性と低四分位の女性における心筋梗塞の率比率(rate ratio)は 1.27 であった。この結果は閉経状態や閉経後のエストロゲン療法、空腹状態、採血時の年齢により変化しなかった。同様の関係は DHEA-S にも認められ、高四分位の女性と低四分位の女性における心筋梗塞の率比率は 1.58 であった。

(Page JH, Ma J, Rexrode KM, et al : Plasma dehydroepiandrosterone and risk of myocardial infarction in women. Clin Chem 54 : 1190-1196, 2008)

(埼玉県立大学保健医療福祉学部 鈴木優治)